

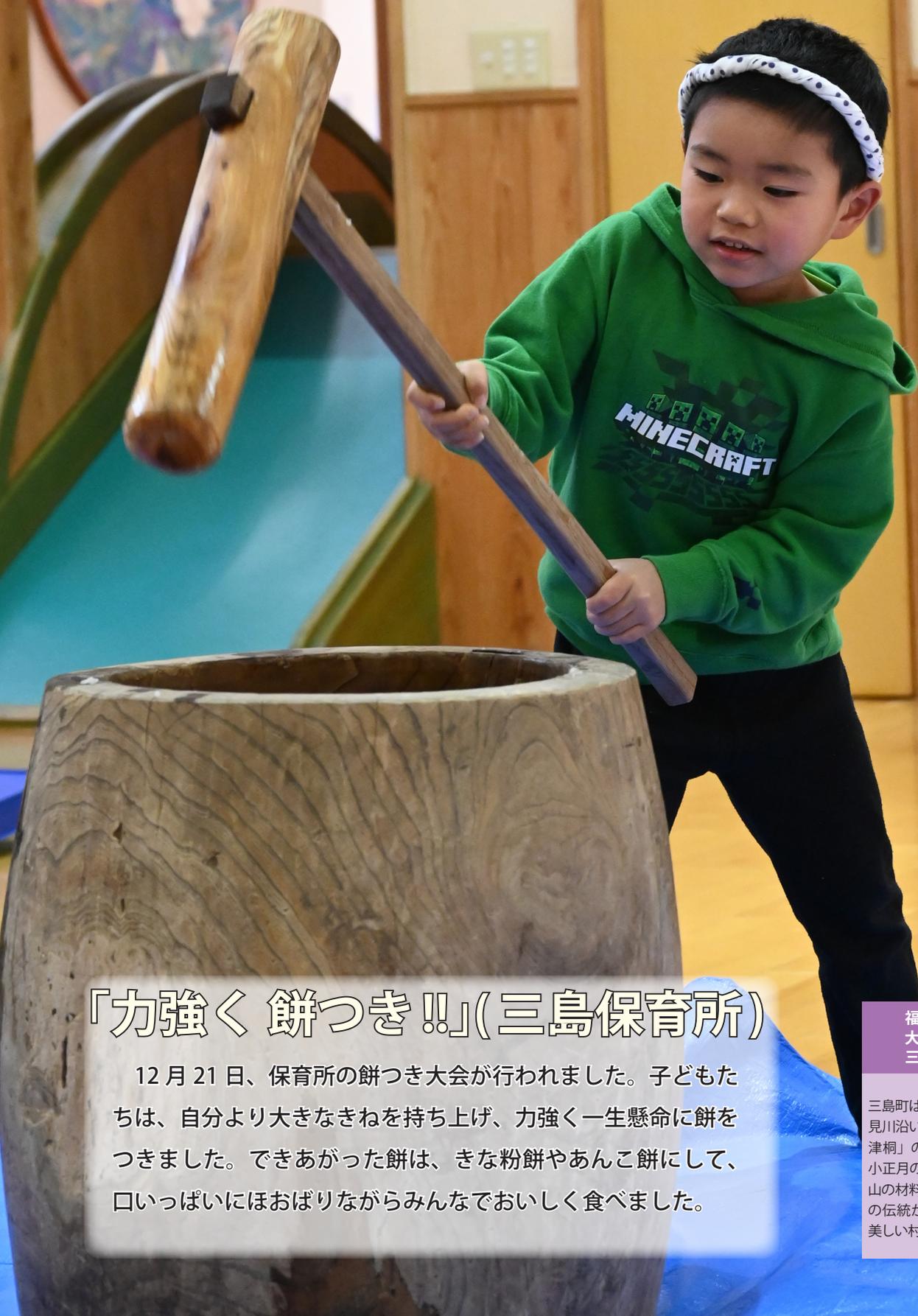
2024

1

January
No. 371

広報

みしま



「力強く 餅つき!!」(三島保育所)

12月21日、保育所の餅つき大会が行われました。子どもたちは、自分より大きなきねを持ち上げ、力強く一生懸命に餅をつきました。できあがった餅は、きな粉餅やあんこ餅にして、口いっぱいほおぼりながらみんなでおいしく食べました。

福島県
大沼郡
三島町



三島町は、福島県の西部を流れる只見川沿いの小さな町です。優良な「会津桐」の産地として知られるほか、小正月の行事「サイノカミ」や、野山の材料で作る「編み組細工」などの伝統が受け継がれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

あけましておめでとうございます

安全・安心な 町づくり

あおき きしよ
三島町議会議員 青木喜章



明けましておめでとうございます。新型コロナウイルスは完全に終結してはませんが、行動制限もなくなり、少しは落ち着いて新年を迎えられたかと推察致します。年頭に当たり議会を代表し、新年のご挨拶を申し上げます。

令和5年を顧みますと、3月に行われた「三島町生活工芸品展」「全国編み組工芸品展」、6月の「ふるさと会津工人まつり」、そして10月の「会津の編み組工芸品展」とコロナ禍以前同様に開催できましたことは、今後の開催の弾みになったと喜んでおります。また7月には福島県の三大地鶏フェスティバルが美坂高原で開催され、三島地鶏が大きくPRされました。この地鶏の処理能力を高め、加工品まで生産できる処理施設が間もなく完成いたします。今後、さらなる生産拡大と販売の増加が見込めると期待されます。

今年度の新築はもう一件あり、かねてよりの懸案事項でありましたガソリンスタンドです。皆様見られていると思いますが、道の駅の隣にもなくオープンします。いつでも安定した給油ができるようになることは大きな安心です。町民の皆様はもとより、多くの方に利用頂けるものと願っております。

また昨年は鳥獣の被害が大きな問

題になりました。幸いにも人的な被害はありませんでしたが、イノシシ・熊・サル、さらにはカラスや小動物まで、農作物に大きな被害をあたえました。捕獲、電柵が対策になりました。捕獲、電柵が対策になりました。山のドングリ、ぶなの実が豊富になるのを願うものです。

令和6年の動きの中では、県立病院の建設が本格化することが大きなものかと思えます。設計から進入道路と目に見える動きが出てくるものと思われまます。令和10年には診療が開始されることですので、期待しながら見守っていききたいと思えます。

奥会津在宅医療センターは継続が決定されましたが、将来ずっとという保証はありませんので要望は続けなければなりません。同じく、町の事業ではありませんが、大谷バイパスも順調に工事が進んでおり、早期の完成が待たれます。

町の課題は、常日頃、申し上げておきますとおり、人口減少の問題です。全国的な問題でこれといった解決策は考えられませんが、全国各自治体が英知を振り絞り、取り組んでいます。できうるあらゆる手段で取り組みなければならぬと思えます。本町におきましては、地域おこし協力隊、生活工芸アカデミー、特定地域



新年のご挨拶を申し上げます

アフターコロナの ヒントは三島にある

やざわ げんせい
三島町長 矢澤源成



新年おめでとうございます。令和6年が町民の皆様にとって良い年でありますように祈念し、年頭のご挨拶を申し上げます。また、この度、町の活性化や振興のさまざまな分野において貢献していただき、自治功労者表彰を受けられた皆様に、心より感謝申し上げます。

令和5年も、コロナに始まりコロナで終わったといっても過言ではありませんが、幸いにして新型コロナウイルス感染症が2類から5類に下がり、ようやく国民全体が落ち着きを取り戻し始めました。三島町を中心に県立宮下病院や奥会津在宅医療センターの医師や看護師の方々、医療関係者にご相談申し上げたところ、快く集団接種などを引き受けていただき、三島町や柳津町そして金山町、昭和村において集団接種をしていただき、町民の皆様が安心安全な環境確保に努めてまいりました。これもひとえに町民の皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。

さて、時代の転換期には、新型コロナウイルス感染症のような、世界を揺るがす大きな事が起きるといわれています。従来機能していた社会システムが機能しなくなる時代に入っているのではないかと感じています。

また、SDGsやカーボンニュートラル、そして、脱炭素社会という言葉の背景には、現在の社会構造の変化、特にエネルギーミックスの再編成が必要であると

感じています。また、SDGsやカーボンニュートラル、そして、脱炭素社会という言葉の背景には、現在の社会構造の変化、特にエネルギーミックスの再編成が必要であると

り、持続可能な社会の実現が求められています。

そして、コロナ収束後の社会は、ウィズコロナとの共生社会が来るといわれ、そのためのキーワードは、集中から分散・成長から成熟、つまり循環型経済共生圏の社会を皆で創造することであると考えます。都市からの分配型の価値観でなく、都市も農村も共生する社会を創ることが、共生型社会には必要です。

半世紀にわたって、三島町が進めてきた都市と農村の交流事業である「ふるさと運動」や地域資源を活用した「生活工芸運動」、住民の健康や農村の農業を守る「有機農業運動」、生活習慣病の克服や健康寿命を伸ばす「健康づくり運動」、文化を継承・活用する「地区プライド運動」、これらの運動をより深化することがウィズコロナの時代を生き抜く政策でないのかと考えています。

今後、宮下病院の大登への建設、奥会津在宅医療センターの設置、大谷バイパスの着工、松原滝谷県道のトンネル化を含めた事業の採択や只見線の全線開通、県立公園から国定公園の指定、只見線の橋梁の土木遺産の指定等々、ポールは奥会津に投げかけられています。

また、ガソリンスタンドや駐車場の整備・食鳥処理加工場の整備、美坂高原の利活用事業、第1只見川橋梁景観の観光客の増大やインバウンド観光客の増大等々、風は三島に吹いております。アフ

ターコロナの日本の進路のヒントは、三島にあるといっても過言ではありません。

これらの動きを受け止めながら、地域振興のために、奥会津5町村が連携協力することはもちろん、町民の皆様のお力を借りながら三島町の振興に全力を傾注してまいります。

そして、これまで先人達が残してくれた歴史を継承・活用し発展させることが今に生きる、また次の世代に送る、相続であると考えます。

令和6年には、地域循環経済の確立のために、再生エネルギーの構築や地域循環、地域共生圏を核とした循環連携協力を行い、人の交流と対流をおして三島町を創造してまいります。

成長という価値から、環境や健康・福祉・介護・再生・地域資源・文化という言葉でキーワードとした価値の多様性を考えて施策の構築を図ってまいります。

人口減少や高齢化社会という厳しい時代に生きていますが、中山間地域の壁を乗り越えていくために、町民の皆様を声をより町政に反映させながら、職員一同チーム三島として挑戦していく決意です。

結びに、この一年が町民の皆様にとって幸多き年となりますことをご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

受け入れできる組織がありますので、PRやアピールをもっと進めて交流・定住に結び付け、人口減少のスピードを少しでも遅らせる事を考えて行きたいと思えます。

今年には町議会議員の選挙の年にあります。町民の皆様の声を議会に届けて頂きたいと思えます、よろしくお願いたします。

結びに、町民の皆様のご繁栄をご祈念申し上げ年頭のご挨拶と致します。

角田伊一さんに旭日単光章 令和5年 秋の叙勲（1月9日）

角田伊一さん（川井）が、令和5年秋の叙勲において旭日単光章を受章され、都合により伝達式に出席できなかったため、福島県教育庁文化財課の平山茂樹課長が来町され、伝達されました。

角田さんは令和3年に福島県教育委員会から文化財保護功労者、翌4年に文部科学大臣から地域文化功労者としても表彰されています。いずれも角田さんの歴史や民俗、自然分野での永年かつ多岐にわたる功績によるもので、これまで町史の執筆や文化財の調査・研究・保護、キマダラルリツバメを中心とした蝶の研究等に尽力されてきました。



▲左より山口教育長、矢澤町長、角田伊一さん、平山文化財課長（県）

令和5年度 福島県統計功労者知事表彰 諏訪時男さんが受賞

11月16日に令和5年度福島県統計功労者表彰式が開催され、町からは諏訪時男さん（浅岐）が県知事表彰を受賞しました。

諏訪時男さんは、昭和41年に三島町統計調査員となって以来、長年にわたり町の統計調査を支えてこられました。統計調査員として57年間所属し、国勢調査や農林業センサスなどの統計調査に従事されました。統計調査を確実に遂行しようとする献身的な姿勢や長年の功績が認められ表彰されました。



▲表彰状を伝達された諏訪時男さん

「おばあちゃんの味!!」

三島小5・6年生が郷土料理を体験

11月24日、町民センターで郷土料理を体験する「おばあちゃんの味」が行われ、三島小の5・6年生8名が参加しました。

老人クラブ連合会女性部の皆さんに教えていただきながら、菜めし、なめこ汁、車麩の甘辛揚げ、ほうれん草のじゅうねん和え、じゃがいもの煮っころがし、切り昆布炒めを作りました。ご飯は「田んぼの学校」で収穫されたお米を使い、できあがった料理は三島小全校児童と一緒に昼食をとり、普段の食事とは違うふるさとの郷土料理を味わう機会となりました。



▲5・6年生が作った郷土料理を食べる様子

三島町交通教育専門員に小島英子さん（荒屋敷）

12月1日付けで三島町交通教育専門員に小島英子さんが委嘱され、このほど矢澤町長より委嘱状が交付されました。

児童・生徒の交通安全指導や交通事故防止活動に取り組んでいただき任期は3年です。さっそく毎朝、子どもたちの登校を見守っていただいています。



▲左から矢澤町長、小島英子さん

新春祝賀会 自治功労者表彰

新春祝賀会並びに自治功労者表彰式は1月4日、町民センターで行われました。新春祝賀会では、会食はせずにお越しになった皆さんと顔合わせをし、新年の挨拶を交わしました。

また、自治功労者表彰では、功労のあった次の方々に、矢澤町長から表彰状と記念品が贈られました。



▲左から佐久間建設工業(株)常務取締役鈴木勝弘さん、滝谷建設工業(株)取締役営業部長板橋康宏さん、鈴木憲生さん(美乃里さんの父)、諏訪静枝さん、二瓶厚さん、栗城功さん

【消防団員】 菅家直人様（川井）	功労表彰
【交通教育専門員】 栗城功様（宮下）	善行表彰
【人権擁護委員】 二瓶厚様（名入）	
【多額の寄付】 明治安田生命保険相互会社 坂下営業所長 月田 誉様	

【令和5年度経営改善普及事業者として】 東北経済産業局長賞受賞 諏訪静枝様（宮下）	顕彰表彰
【第七十六回福島県総合スポーツ大会】 ボート競技少年少女ダブルスカル優勝 鈴木美乃里様（宮下）	
感謝表彰	
【多額の寄付】 滝谷建設工業(株) 代表取締役社長 田中智仁様（宮下） 佐久間建設工業(株) 代表取締役社長 佐藤岩男様（早戸）	

「ドキドキ ワクワクしながら 楽しそうに演技!!」

三島保育所 発表会

三島保育所の発表会は12月2日に行われました。子どもたちは緊張しながらも元気いっぱいに劇やダンスを披露し、日頃の練習の成果を発表しました。たくさん練習してきた子どもたちは、ドキドキ、ワクワクしながらとても楽しそうに演技していました。会場を訪れたご家族の皆さんは、子どもの成長に温かい拍手を送っていました。



▲うさぎ・ぱんだ組の発表



▲りす組の発表



▲きりん組の発表

表彰者一覧

JR 宮下駅前「雨ニモマケズ」～壁画リニューアル～ (11月14日) 小島 純さん (宮下)

宮下地区では「まちなみ景観を活かしたおもてなし」を地区づくりに据えて取り組んでいます。

壁画設置当時、駅前にはまちなみを阻害する空き家があり、駅前の景観を良くする活動の一つとして三島中学校の生徒さんの協力を得て、宮下地区と共同作業として取り組んだものです。

その後、空き家は取り壊されましたが、壁画はまちづくりの成果として現在の位置に移設されました。その壁画も経年劣化により文字も読みにくくなってきたことから、当時制作指導を頂いた美術家の半沢政人氏と三島中学校の生徒の皆さん、三島町のご支援で壁画の再生に取り組み、この度完成に至り完成式が行われました。リニューアルされた壁画に「宮下駅前活性化プロジェクト」の看板が新たに加えられました。



活性化センターの冬囲いと清掃 (11月25日) 小島 純さん (宮下)

宮下活性化センターの冬囲いと清掃が、地区委員、地区住民協力を得て公園、水路の清掃、植木のせん定などの作業が行われました。

一方、別班を編成し1月の「歳の神」用の杉の葉集めも同時に行われ、サイクリングロード脇の杉の木を切り倒し、枝を切り落とし軽トラックで会場の神社境内に運搬しブルーシートで覆い降雪に備えました。



「みんなで収穫を祝う」(11月27日) 小島 純さん (宮下)

「宮下そばと豆腐の会」(佐久間宗一会長)では、地区住民や町民の協力によってそば刈り、脱穀、製粉を祝い収穫祭が行われました。

10月には、大勢の協力を得て脱穀作業が宮下活性化センター前でされ、皆さん楽しく会話をしながら作業に汗を流しました。収穫祭ではざるそば、かけそば(けんちん)等がふるまわれ、何杯もおかわりする参加者もいて、新そばに舌鼓をうっていました。



早戸の「お楽しみ会」(12月11日) 橋本 光五郎さん (早戸)

6月から毎月2回活動してきた「お楽しみ会」ですが、例年どおり雪の降る冬場はお休みをするということで、12月で今年度の活動を終了しました。

コロナウィルス禍等で2年間活動を休んでいましたが、今年度も「クラフトバンド」での籠細工に取り組みました。クラフトバンドでの籠細工は今年で通算3年目ということもあり、今年はそれぞれが作りたいと思う物に取り組みました。しかし、人によっては少し背伸びをし過ぎて、作品作りに苦労した方もあったようです。

最終日の12月11日は、活動終了後、1年間の活動を振り返りながら参加者全員でお弁当の昼食をとり活動を締めくくりました。



「埋もれ木の年輪からわかった5500年前の沼沢火山大噴火」

令和5年12月19日、町民センター・大ホールにおいて、福島大学共生システム理工学類教授・木村勝彦先生の講演会「埋もれ木の年輪が語る沼沢火山の5500年前の大噴火」が、三島小・中学生を対象に、町民にも公開する形で開催されました。

前半は木村先生が専門である年輪年代学(酸素同位体比分析)の研究方法を小・中学生にわかりやすく説明していただきました。この方法を用いると令和3年の冬に大谷地区・大谷川から発見された5500年前の埋もれ木の樹齢はどれくらいであったのか、噴火により枯死したのか、いつ頃か、その後にできた堰止湖の決壊による大洪水が現在の新潟県まで流れ込んだのはいつだったのか、想像もできないような数千年前の出来事が科学的に明らかにすることをお話されました。



▲講演いただいた木村勝彦先生 ▲講演会の様子

後半は小・中学校が取り組むキャリア教育(生き方教育)の一環として、木村先生に「埋もれ木の年輪からわかった5500年前の沼沢火山大噴火」について年輪年代学という学問に巡り合い、現在の職業に就いたのかという半生とともに、「たまたま」の出会いが重要で大切にすること、そのさまさまな出会いという点と点がいつか結びつき、大事な気付きや発見になるといった経験知を語っていただいた、小・中学生がさまざまな人生や仕事、その教訓に触れる機会となりました。



▲質問をする三島小児童 ▲司会進行を行う三島中生徒

本年9月に交流協定を締結した雲林科技大学から、講師や学生など7名及び台湾から千葉大学へ留学中の学生1名の合計8名が去る11月15日から21日までの1週間に渡り、生活工芸館でマタタビ細工の技術研修のために来町しました。マタタビ細工の四ツ目ザルの制作を材料採取から行い、講師の矢澤昇さんは「台湾から来た皆さんはとても器用で、意欲的。皆が完成しても安堵した。」との感想でした。また、参加した学生の1人は三島町が初めての日本訪問で、「第2のふるさとになった」と感想を述べていました。

台湾 雲林科技大学交流協定 技術研修生8名を受入



▲交流最終日役場前にて ▲マタタビの皮むきを体験する研修生の皆さん ▲マタタビ箆の作成後の様子

自主防災組織の設立支援に向けた地区座談会 (12月6日)

本名 与四郎さん (西方)

午後7時より、西方ふるさとセンター2階大広間において地区座談会が行われました。町当局から、矢澤源成町長、議題の説明として総務係長の大竹重一郎さんの他、地区職員が出席しました。総務係長より、「自主防災組織の設立支援」について説明がありました。大災害が発生した場合、「公助」として、消防署などの防災関係機関が、救助や援助活動に全力を注ぐが、電話の不通、道路の不通、火災の発生、水道管の破損などの悪条件が重なり、すぐに救助ができないことが想定されます。そのような時にこそ、まず自分の身は自分で守る「自助」とともに、地域住民が集まり、お互いに協力・助け合う「共助」の必要性の説明がありました。平常時から地域で自主的に防災活動に取り組む組織の設立手順などの支援を役場総務課でサポートしていくことが確認されました。

その後、地区住民から、ふるさと荘の前周辺の景観の問題、地下水限界による消雪水再利用の問題、西方駅など無人駅にトイレがなく不便をきたしている問題、森の校舎カタクリのプールの活用の問題など、多岐にわたって西方地区民から熱き思いの意見交換がありました。地区座談会で話し合われたことが、今後の西方地区により良く反映されること期待します。



「地域力 高齢者守る 知恵がある」

消防訓練を初めて実施 (12月19日)

橋本 光五郎さん (早戸)

先般行われた地区座談会で「地区防災組織」の話が出たことを契機に、地区として近年では初めての消防訓練を午前8時30分から行いました。

今回は初回ということで、地区役員を中心に有志で消火栓の取り扱いについて学ぶこととし、当日は町役場の担当職員と地区の消防団員の指導を受けながら、ホース等の接続の仕方、放水の仕方等を、実際に放水を行いながら参加者全員が体験学習しました。

居住者も少なく高齢化も進む当地区としては、居住者全員が、自分ができていることを確認しながら協力できる体制を作っていくしかないのかなとも感じた訓練でした。



恒例のクリスマス会を開催 (12月18日)

橋本 光五郎さん (早戸)

早戸地区では恒例となったクリスマス会が今年も12月18日に開催されました。地区には高齢者が多いため、新型コロナウイルス感染症への感染予防に配慮し、今年も個別のお弁当での開催となりましたが、クリスマスプレゼントも用意され、ケーキやワインの差し入れもあるなど、楽しい会にすることができました。

また、今春早戸に移住してこられた清水さん親子が自作したクリスマスリースやガーランドを生活改善センター入口ホールに飾ってくださり、クリスマス会の雰囲気盛り上げていただきました。



地域おこし協力隊

新年のご挨拶

活動誌

鈴木 亮

皆さん、新年明けましておめでとございます。鳥獣対策専門員の鈴木です。今年もよろしくお願いいたします。

昨年9月に着任し、気づけばもう新年と、時の流れの速さを痛感しています。

皆さんもご存じのとおり、昨年はツキノワグマの大量出没があり、私も着任早々、クマ捕獲のための罠の設置、捕獲の立ち合い、出没現場の確認と、とにかくクマに追われる毎日でした。

また、昨年11月に散弾銃の許可を受け、晴れて猟師としてデビューしたのですが、初めて仕留めた獲物も有害駆除の罠にかかったツキノワグマでした。

今後、私が狩猟の道を歩み続ける限り、ツキノワグマとは深く関わっていくことになるので

しょう。恐ろしい相手ではありますが、怪我をしないよう、うまく付き合っていきたいと思いません。

さて、そのツキノワグマですが、今年の春も人里に多く出没すると言われていきます。昨年多く生まれた子グマが親離れし、さらに山中には食料がないという事で、食料を求めて多くのクマが人里に出没すると予想されています。

昨年は人里に下りてきたクマを捕獲するのが対策の中心となっていました。本来、人とクマが住む環境は別であるべきであり、クマが人里に下りてこないような対策も必要であると感じています。

今年はこのような対策を進め、クマを含む野生動物の被害を減らせるよう、努力していきたいと思えます。

今年1年が皆さんにとって良い年でありますように。



アカデミー活動のようすと来期募集について

- 第7期アカデミー生募集中 -



▲米研ぎ箆 (底編み・立ち上げ)



▲米研ぎ箆 (縁編み)

アカデミーでは、必修科目の最後、マタタビの米研ぎ箆ざるの制作に取り組んでいます。11月の中旬に山をめぐって採取したマタタビを、表皮を剥ぎ、四つ割りにしてヒゴに仕立て、組んでいきます。縁まであがっても、この内縁と外縁の2本の縁編みが、なかなか時間がかかる部分で、完成までにはさらに時間が必要です。

さて、生活工芸アカデミー事業について、来期受講生の募集がはじまっております。ぜひ、お近くのご興味のある方へお声がけください。詳細は町や生活工芸館のホームページに掲載のほか、生活工芸館までお問い合わせください。

【応募方法】 「履歴書」及び「志望動機」を提出

【応募締切】 令和6年1月20日Ⓢ

<三島町生活工芸アカデミーとは>

三島町に暮らしながら、町の生活文化、民俗行事、雪国奥会津の暮らしを体感し、ものづくりをしながら自活できる素養の一端を身に付け、生活工芸や伝統文化の継承、地域の活性化などの担い手を目指す一年間の講座です。

☎三島町生活工芸館 ☎ (48) 5502

工芸館だより ③② 〽ものづくりの伝承〽





冬に取り組む脱炭素につながる地域独自の後押し

三島町のみなさま、あけましておめでとうございます。昨年は初めて文化祭にて環境研の3Dふくしまを展示させていただき、我々の取り組みをみなさまに知っていただく良い機会になったと思います。引き続き、この「環境研だより」等で環境にまつわる話題や研究の内容をお伝えしていこうと思いますので、本年も何卒よろしくお願いたします。

さて今回はこれまでお伝えしてきた脱炭素につながる取り組みである「デコ活」の中から、各地域で行っている冬ならではの取り組みをご紹介します。

○寒冷地の札幌における脱炭素暮らしの提案 【北海道札幌市】

<https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/detail/region/116.html>

昨年もご紹介した北海道札幌市の取り組み。寒冷地では、住宅における冬期間の暖房使用によるエネルギー使用量が多く、またCO2排出量の多い灯油式の暖房や給湯機器の使用率が高い、という問題があります。この取り組みは灯油式からCO2排出量の少ない電気・ガス式の暖房、給湯機器へ転換を行うと、導入費用の一部に補助を受けられる制度です。省エネの機器に入れ替えたいけど費用の問題でなかなか入れ替えられないという方はたくさんいらっしゃると思うので、このような補助が非常に助かりますね。

○冬の節電プログラムの実施【北海道電力株式会社】

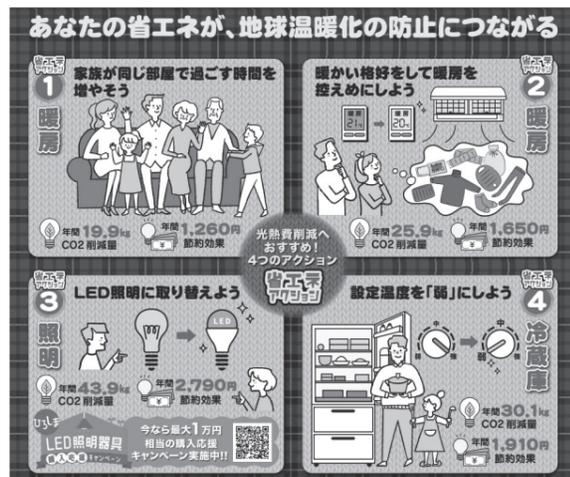
<https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/detail/incentive/90.html>

こちら北海道で2023年に行っていた取り組み。キャンペーンにエントリーして、冬期間の各月の電気使用量が前年同月との比較でマイナス3%以上を達成するとポイントが貰えるというものです。冬はエアコン等の暖房機器の使用で電気使用量が大きくなってしまいます。エアコンの設定温度を低めにし、その分部屋の中でも厚着をしたり、窓の断熱を図ったり、家族一緒にリビングで過ごす時間を長くして個別の部屋の電気使用を減らす等、節電に心がける良いきっかけになりそうです。

○冬の光熱費節約チャレンジ【広島県】

<https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/detail/incentive/355.html>

こちらは広島県で行っている冬季の省エネを応援する取り組みです。県民の方々に4つの省エネアクションを1か月取り組んでもらい、その後のアンケートで結果を報告した方に抽選でプレゼントが貰えるというもの。この取り組みの大事な点は「我慢や無理をせず、楽しく光熱費節約を実感いただく」というところです。夏の節電も同じですが、我慢をして健康を損ねたり、ストレスが溜まったりしてしまったりは元も子もありません。自分のできる範囲で取り組んでみましょう。



「冬の光熱費チャレンジのポスター」
省エネアクションをわかりやすく解説している

夏に比べてエネルギーの消費が大きい冬の期間に省エネのアクションを行うことで脱炭素行動を取りつつ、光熱費の節約にもなります。この記事をきっかけに、くれぐれも我慢や無理をせずに日々の生活で節電に取り組んでみてはいかがでしょうか。

<筆者コメント(常盤達彦)>

現在住んでいる郡山市の家よりも実家である埼玉県の家の方が寒い気がします…それはやはり実家が古く、断熱性能や気密性が低いのだと思っていて、家の断熱性が重要だと実感しました。

国立環境研究所福島地域協働研究拠点
地域環境創生研究室 ☎ 0247 (61) 6572

地域循環コラム 第19回

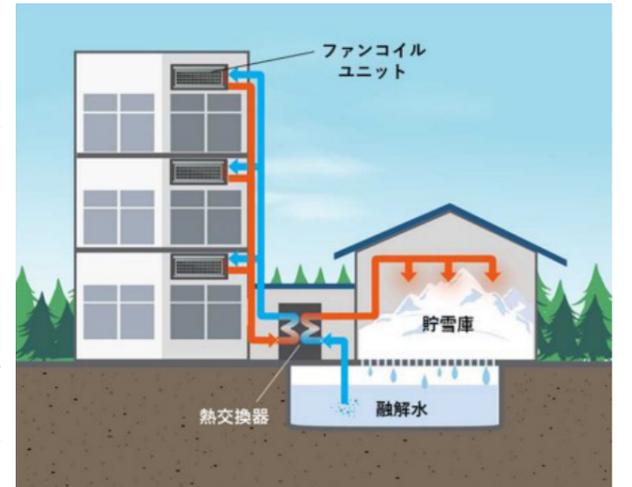
～雪氷熱利用を考える～

本格的な冬を迎えている今日この頃ですが、この冬は暖冬で暖かい日が続いています。それでも時折の寒波と合わせて一気に積雪してしまうこともあり、このような時の雪かたしは大変なものです。筆者は、九州出身ですので雪が積もると少し高揚感もありますが、降雪が続くとやはり嫌気が差します。そんな厄介者とも言える「雪」ですが、夏季の貴重な冷熱源(雪氷熱)としてエネルギー利用されていますので、今回はその再エネ設備について少し考えていきたいと思います。

1 雪氷熱利用について

冬季に降った雪や外気で凍らせた氷を貯蔵し、そこから得られる冷熱を冷房等に利用するシステムのことを「雪氷熱利用」と言います。北海道を中心に導入が進んでおり、寒冷地ならではの再生可能エネルギーです。三島町では未だ導入されていませんが、会津では県喜多方合同庁舎や裏磐梯ビジターセンターなどに導入されています。

右図のように貯雪庫に雪を移動させて貯め込むことで、気温が上がる夏季には雪で解かした冷水や冷気を使い冷房とするシンプルで環境に優しい仕組みです。排雪等で大量に不要となっている雪をエネルギー源として転換できることはメリットの一つだと思います。



(出典) 再生可能エネルギー熱利用の概要・導入事例 雪氷熱利用 / 基本情報 <http://www.env.go.jp/earth/> 再生可能エネルギー熱利用の概要・導入事例 .pdf

2 奥会津の雪氷熱ポテンシャル



(写真) 只見線第一橋梁ビューポイントの除雪をする筆者
この雪を何とかエネルギーにできないかと考える…

さて、三島町での雪氷熱利用については、全国的に見てもかなりの有力地域だと筆者は感じています。

令和4年度の気象庁アメダスの地点データ(金山町)では、累計降雪量が684cmとなっています。(三島町にはアメダス観測地点がないので悪しからず。)

これは導入が進んでいる北海道等の地域と比べても遜色ない降雪量です。加えて、夏はそのような地域よりも気温が上がりやすく冷熱需要も少なくないため、非常にポテンシャルがある地域だと思います。

3 まだまだ課題も多い

しかし、この雪氷熱利用にも課題があります。やはり一番の課題は貯雪庫と冷房システムの導入コストに見合ったエネルギーコスト削減とならないことです。どうしても導入可能な場所が寒冷地に限られており、真夏以外は冷熱需要が少ないため限定的なコスト削減となりがちです。そのため、民間での導入が進んでおらず、導入先は採算性が問われづらい公共施設が多い状況のようです。

ただ、設備更新時の採算性が厳しい場合でも、公共施設等の新設・建替え等の際に合わせてこの仕組みを取り入れることで少しコストメリットが出やすいようです。いずれにしてもポテンシャルの高い地域ではあるので何とか利用できないかと考えている次第です。

【地域おこし協力隊 やまとたかひろ 山本敬晴】

町からお知らせ

ご寄附ありがとうございました(11月分)

ふるさと納税

二瓶 満 様(千葉県)
 遠山 直人 様(東京都)
 竹本 敬子 様(東京都)
 五十嵐 竹男 様(福島県)
 森 ハツ子 様(福島県)
 酒井 良介 様(東京都)
 楠 美淳二 様(千葉県)

寄附件数 35 件 計 332,000 円

1月分納税のご案内

【納期限 1月31日(水)】

- ▼ 町県民税 (普通徴収) (第4期)
 ▼ 後期高齢者保険料 (普通徴収) (第6期)
 忘れずに納付してください。
 ●町民課 町民係 ☎(48) 5555

お悔み申し上げます

長郷 春雄 様(79才・宮下)
 若林 テイ子 様(98才・滝谷)
 菅家 ヒロ子 様(97才・間方)
 小松 順吉 様(101才・西方)

町の人口と世帯(12月1日現在)

人口	1,380	増減数	-1	出生	0
男	698		1	死亡	0
女	682		-2	転入	1
世帯	687		-2	転出	2

※住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

社会福祉協議会より

大石田友遊サロン	サロンなごみ
1月15日(月) 午前10時から 大石田集会所	1月24日(水) 午前10時から 西方ふるさとセンター
高清水・小山 いきいきサロン	ほがらかサロン
1月19日(金) 午前10時から 高清水集会所	1月25日(木) 午前10時から 森の校舎カタクリ
川井友愛サロン	サロンないり
1月19日(金) 午前10時から 川井集会所	1月29日(月) 午前10時から 名入集会場
間方いきいきクラブ	ひまわりサロン
1月22日(月) 午前10時から 間方集会所	2月2日(金) 午前10時から 町民センター
滝谷和楽塾	
1月23日(火) 午前10時から 滝谷集会所	

町社会福祉協議会へのご寄附
(ご遺志によるもの)

長郷 潤(間方)
 若林 真人(滝谷)
 菅家 壽一(間方)
 小松 順太郎(西方)

●社会福祉協議会 ☎(52) 3344

県立テクノアカデミー会津

個別進路相談会のお知らせ

【日 時】 ① 令和6年1月14日(日) 9:30~12:00
 ② 令和6年2月25日(日) 9:30~12:00
 【場 所】 県立テクノアカデミー会津
 (喜多方市塩川御殿場4丁目16番地)
 【対象者】 高校生(学年問わず)と保護者
 会津地域で就職を考える若年者の方

入学をお考えの方や、会津地域で就職を希望される方を対象に、個別進路相談会を開催します。

事前申請は不要ですので、気軽にご参加ください。
 なお、詳細はホームページ(<https://www.tc-aizu.ac.jp>)に掲載しています。



●県立テクノアカデミー会津 ☎0241(27)3221

消防署からのお知らせ

「文化財防火デー」

昭和24年(1949年)1月26日に、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺の金堂が炎上し、壁画が焼損したことに基いており、火災や震災などから文化財を守ろうと全国で防火運動が展開されます。

三島町には町指定の有形文化財が数多くあり、その多くは木や紙、布など燃えやすい素材で作られているため、所有者や管理者の皆さんはもちろんのこと周辺の皆さんも火の取り扱いには十分注意し、住民共有の貴重な遺産を後世に引き継いで行きましょう。1月は冷え入りもピークを迎える頃であり、暖房器具の使用機会も多くなりますので、十分注意してください。

また、除雪作業時の事故も起きやすい時期です。除雪をする際は、家族や近所にその旨を伝えてから作業を行ってください。万が一のことがあった場合にすぐ連絡できるよう携帯電話を持って作業しましょう。

<災害情報案内サービスの電話番号が変更となりました>

【変更前】0242-25-1133 → 【変更後】0242-93-6119

※ 令和5年12月15日の17時から変更となりました。

●会津坂下消防署三島出張所 ☎(52) 3032

宮下病院長から新年の御挨拶

新年おめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが変更され、感染の流行が一進一退する中、同時にインフルエンザウイルス感染症の流行が見られるなど、依然として感染症から身を守りながらの生活が続いております。このような中、地域の皆様より病院の運営に際し御支援と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本年におきましては、地域の皆様が安心して生活できるよう近隣町村との連携を深めながら、奥会津地域唯一の病院として診療機能の充実に努めてまいります。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

福島県立宮下病院 院長 横山秀二

会津坂下警察署からのお知らせ

～みんなで作ろう安心の街～

県内のなりすまし詐欺の発生件数及び被害額は昨年度よりも減少傾向にあるものの、依然として被害は多く発生しています。

また、年末年始期間を安全で安心して過ごせるように、防犯活動にご協力をお願いします。

<安心の街をつくるために>

- 1 詐欺の被害に遭わないためにはいつでも留守番電話が効果的です。相手の声を電話のスピーカーで聴くことができ、誰からの電話か慌てずに判断できます。また、犯人は自分の声を録音されることを嫌がり電話を切ることが期待できます。
- 2 空き巣や車上狙いにあわないために、ゴミ出しや買い物など、短時間でも家や車から離れるときは、必ず施錠しましょう。悪質商法も撃退! ドアを開けず、きっぱり断ることが大切です。
- 3 犯罪や事故から子どもや女性、高齢者を守りましょう。散歩・ウォーキング・庭の掃除・買い物など 日常生活のなかで見守り活動をしましょう。

●会津坂下警察署警務係 ☎0242(83)3451

第51回 雪と火のまつり 開催決定!!

令和6年2月17日(土) 三島町町民運動場

国の重要無形民俗文化財指定
「三島のサイノカミ」

小正月伝統行事を再現

雪上イベントも盛りだくさん



皆さまのご来場をお待ちしています!

問 雪と火のまつり実行委員会
(三島町観光協会内) ☎ (48) 5000

中古農機具を譲りたい 譲り受けたい方はいませんか?

現在農機具を所有されている方で農機具を譲りたい・処分を予定されている方、これから農機具を必要とする方で譲り受けを希望される方へお知らせします。

町農業委員会では、中古農機具の活用について、まずは離農又は新規購入を理由に農機具が不用となったものを、これから農機具を活用したい方への譲渡に関わる情報提供と双方の仲介役となり有効活用を考えております。

中古農機具の譲渡及び譲受をご希望の方は、町農業委員会事務局までお問合せいただき、申込書の提出をお願いします。なお、農業に関するご相談やお困りのことがありましたら、農業委員や事務局へお気軽にお問合せください。

問 農業委員会事務局 ☎ (48) 5566

